

事業再評価(原案)

近畿自動車道敦賀線
(小浜西IC ~ 小浜IC)

2. 事業の経緯及び進捗状況

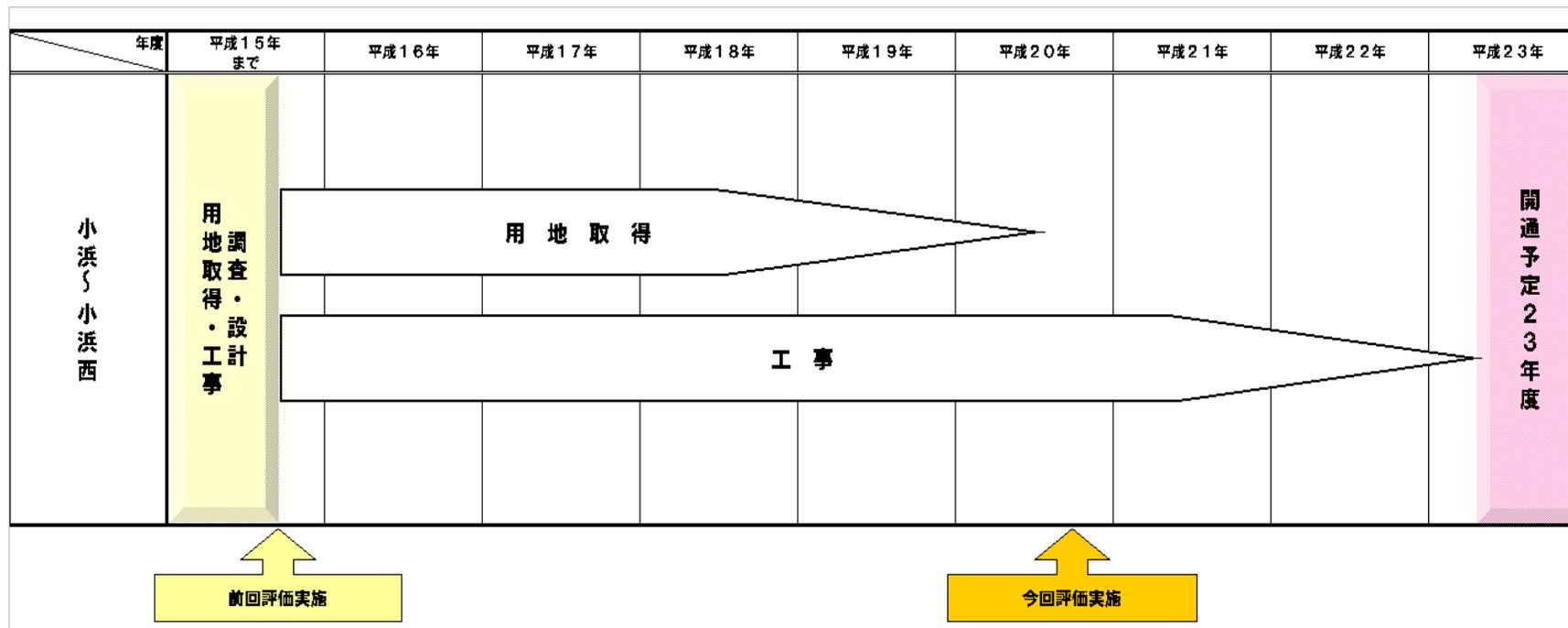
事業の経緯

整備計画	平成 8 年 1 2 月
施行命令	平成 1 0 年 4 月
実施計画認可	平成 1 0 年 4 月
整備計画変更	平成 1 8 年 2 月
事業変更許可	平成 1 8 年 3 月
開通予定	平成 2 3 年度

進捗状況(平成20年度末見込み)

事業進捗率	4 3 % (事業費ベース)
用地取得率	1 0 0 % (面積ベース)
工事着手率	1 0 0 % (延長ベース)

【現在の状況】
平成 2 3 年度の開通に向けて工事全面展開中である。



3 . 事業の整備効果

地域間交流が活性化

- ・ 小浜西IC～敦賀JCTの整備により、拠点都市(舞鶴市・敦賀市)が高規格幹線道路で連絡される。
- ・ 国道27号線を利用した場合と比較して、距離が約10km, 所要時間で約20分短縮され利便性が向上する。



算出方法: 高速道路は規制速度, 一般道は道路時刻表などを用いて算定。

3 . 事業の整備効果

観光産業や物流の効率化を支援

- ・ 各観光地への所要時間の短縮により、観光客入込みの増加が期待される。
- ・ 観光産業や物流の効率化を支援し地域産業の発展が期待される。



3 . 事業の整備効果

リダンダンシー機能の発揮

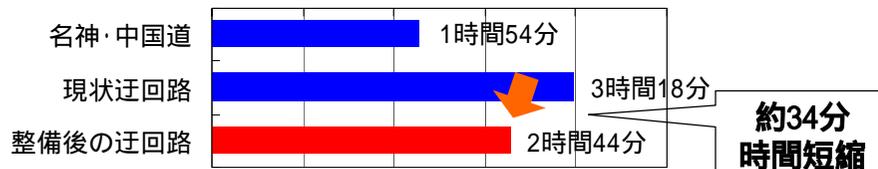
- ・ 名神高速道路や中国自動車道の自然災害時に代替路としてリダンダンシー機能を発揮する。

名神及び中国道は、中部・関東と関西、中国・九州地方を結ぶ重要路線である。

舞鶴若狭自動車道の全線開通により、北陸自動車道と併せて、広域的な代替路線を形成し、リダンダンシーが確保できる。

阪神淡路大震災の際には舞鶴若狭自動車道・国道27号ルートが迂回路として機能した。

米原JCT ~ 吉川JCTの所要時間



算出方法: 高速道路は規制速度, 一般道は道路時刻表などを用いて算定。

名神高速道路・中国自動車道のリダンダンシーの確保



4 . 費用便益分析の結果

区間) 近畿自動車道敦賀線(小浜西IC ~ 敦賀JCT)

便益(B) (現在価値:H20)	走行時間短縮便益	3,582 億円
	走行経費減少便益	284 億円
	交通事故減少便益	90 億円
	計	3,957 億円
費用(C) (現在価値:H20)	事業費	2,419 億円
	維持管理費	207 億円
	計	2,626 億円



費用便益比 B / C = 1 . 5

費用便益分析マニュアル(H 2 0 . 1 1 国土交通省道路局都市・地域整備局) に基づき算定

注 1) 費用及び便益額は整数止めとする。

注 2) 費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

5 . 対応方針（原案）

事業の必要性等に関する視点

費用対効果（B / C）は1.5である。

- ・国道利用と比較して距離・所要時間が短縮
- ・観光地へのアクセス向上による観光産業の振興
- ・物流の効率化による地域産業の活性化

など便益に反映されていない効果も含め、当該区間の必要性は高い。

事業進捗の見込みの視点

- ・供用予定は平成23年度であり、現在、用地取得が完了し、工事全面展開中である。

対応方針（原案）

【事業継続】

関係機関の協力を得ながら、早期の供用を目指し、事業の進捗を図っていき
たい。